

■ 概況

3/28~4/3のNYMEX・WTIは、59.30~62.58ドルの範囲で推移した。

4月4日は、前日のEIA米国原油在庫週報の積み増し報告で需給緩和感が再燃、さらにドル高・ユーロ安の進行に伴う割高感が続落した。ただ、イランとベネズエラの供給削減懸念を含めOPECの減産が下値を支えた。5月限終値は前日比0.36ドル安の62.10ドル。

週末5日は、東西に分裂し内戦中のリビアで、東部のリビア国民軍が暫定政府の治める首都トリポリに進撃を命令したことでリビア原油の供給不安が高まり、3日ぶりに反発した。また、堅調な米国雇用統計、米中貿易協議への楽観的な観測も支援要因となった。ただ、ベーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は831基（前週比15基増）と7週ぶりの増加となった。5月限終値は前日比0.98ドル高の63.08ドル。

週明け8日は、リビア内戦の激化、イラン・ベネズエラ経済制裁の強化の懸念など供給リスクに加え、中国政府による経済刺激策検討の報道により大幅伸びし、5ヵ月ぶりの高値を記録した。5月限終値は前週末比1.32ドル高の64.40ドル。

9日は、ロシアのノバク・エネルギー相が協調減産の延長に否定的な発言、プーチン大統領が現状の原油価格には満足しており、制御不能な上昇は支持しないと発言したとの報道があり、反落した。5月限終値は前日比0.42ドル安の63.98ドル。

10日は、OPEC月報でOPEC等の協調減産が非加盟国の増産を上回ったこと、EIA在庫週報で米国ガソリン在庫が大

幅に取り崩されたことから、反発した。5月限終値は前日比0.63ドル高の64.61ドル。

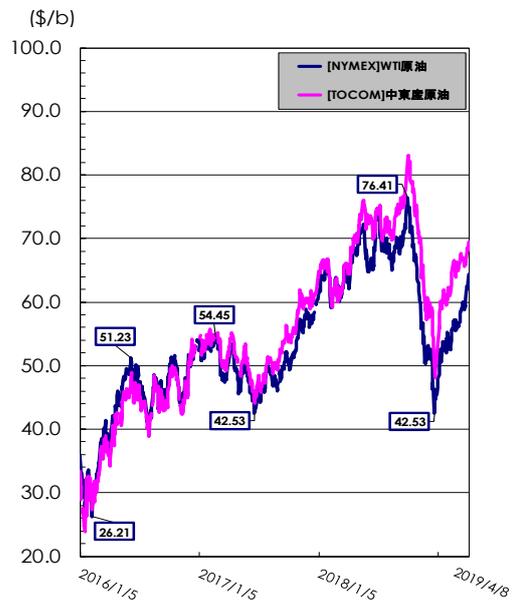
アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（5月渡し）は3月28日~4月3日の間66.90~69.40ドルの範囲で推移した。4月4日68.90ドル、5日68.90ドル、8日70.20ドル、9日70.40ドル、10日70.10ドルで推移した。

為替は3月28日~4月3日の間110.36~111.52円の範囲で推移した。4月4日111.54円、5日111.81円、8日111.44円、9日111.42円、10日111.20円で推移した。

財務省が5日発表した貿易統計（速報・旬間）によると、3月中旬の原油輸入平均CIF価格は、46,045円/klで、前旬比1,605円高、ドル建てでは65.79ドルで前旬比1.97ドル高。為替レートは1ドル/111.21円だった。

そのような中で、4月8日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値上がり、軽油も同0.1円の値上がり、灯油も同2円の値上がり（18%ベース）だった。ガソリン、軽油、灯油ともに8週連続の値上がりだった。この週（4月第2週）の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.0円の引き上げとなった。

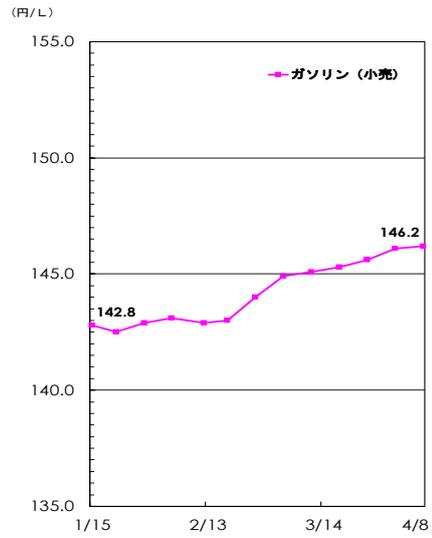
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/31 ~ 4/6	3,509 ▲20	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	89.6 ▲0.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	4/6	12,093 ▼-449	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	4/8	69.47 ▲2.49	▲ 5.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	4/8	64.40 ▲2.81	▲ 1.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月中旬	65.79 ▲1.97	▼ -1.00
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	46,045 ▲1,605	▲ 1,281
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.27 ▼-0.56	▼ -4.71
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/8	112.44 ▼-0.34	▼ -4.57



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/31 ~ 4/6	928 ▼ -115	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	976 ▲ 65	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -122	▼ -	
	在庫	4/6	1,570 ▼ -49	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/2 ~ 4/8	62.7 ▲ 1.4	▲ 2.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/2 ~ 4/8	60.1 ▲ 2.3	▲ 1.9
		(TOCOM/中部)	4/8	62.5 ▲ 2.0	▲ 3.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/8	146.2 ▲ 0.1	▲ 2.9	

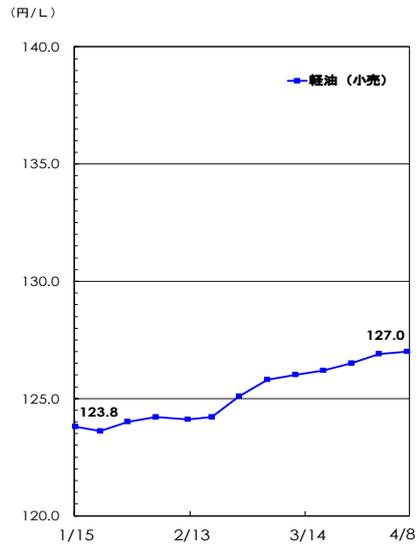
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

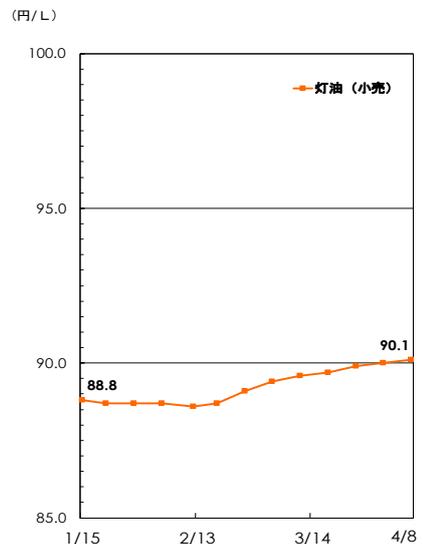
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/31 ~ 4/6	777 ▼ -17	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	628 ▼ -38	▼ -	
	輸出	"	86 ▼ -296	▼ -	
	在庫	4/6	1,398 ▲ 64	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/2 ~ 4/8	65.1 ▲ 0.2	▲ 3.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/2 ~ 4/8	66.1 ▲ 1.2	▲ 5.2
		(TOCOM/中部)	4/8	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/8	127.0 ▲ 0.1	▲ 5.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/31 ~ 4/6	227 ▼ -111	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	376 ▲ 38	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	→ -	
	在庫	4/6	1,182 ▼ -149	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/2 ~ 4/8	64.6 ▲ 0.4	▲ 2.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/2 ~ 4/8	64.0 ▲ 1.6	▲ 4.8
		(TOCOM/中部)	4/8	64.2 ▲ 1.7	▲ 4.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/8	90.1 ▲ 0.1	▲ 2.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月10日のNYMEX市場WTI原油は、この日発表の石油輸出国機構(OPEC)の月報で、3月産油量がベネズエラで100万b/dを下回るなどOPEC等の減産が非加盟国の増産を上回ったこと、また、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、米国ガソリン在庫が前週比で770万バレル減と市場予想(同100万バレル減)を上回り大幅に取り崩されたことから、反発した。ただ、原油在庫は前週比700万バレル増と市場予想(前週比40万バレル減)に反して3週連続積み増しになったことが上値を抑えた。5月限終値は前日比0.63ドル高の64.61ドル。6月限の終値は前日比0.69ドル高の

64.65ドルだった。

EIAによると、4月8日時点のガソリンの小売価格は、前週比5.4セント値上がりの1ガロン2.745ドル(81.4円/ℓ)、ディーゼルは同1.5セント値上がりの3.093ドル(91.8円/ℓ)となった。ガソリンは9週連続の値上がり、ディーゼルは2週ぶりの値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年3月31日～4月6日に休止したトッパー能力は24.4万バレル/日で、前週に対して変化はない。(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は350.9万klと、前週に比べ2.0万kl増加。前年に対しては16.8万klの減少。トッパー稼働率は89.6%と前週に対して0.5ポイントの増加、前年に対しては4.3ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェットが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/11.0%減、ジェット/21.0%増、灯油/32.8%減、軽油/2.2%減、A重油/9.6%減、C重油/32.3%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.2万kl減)。軽油の輸出は8.6万kl(前週比29.6万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、灯油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェット、灯油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は97.6万kl(対前週7.2%増)と前週比で2週振りが増加となり、14週連続で100万klを下回った。ジェット8.1万kl(対前週38.4%減)、灯油37.6万kl(対前週11.2%増)、軽油62.8万kl(対前週5.7%減)、A重油22.9万kl

(対前週0.6%増)、C重油9.5万kl(対前週46.1%減)。

(単位:千KL)

	今週 (3/31 ~ 4/6)	前週 (3/24 ~ 3/30)	前週比	
ガソリン	976	911	▲ 65	(7%)
ジェット燃料	81	131	▼ -50	(-38%)
灯油	376	338	▲ 38	(11%)
軽油	628	666	▼ -38	(-6%)
A重油	229	228	▲ 1	(0%)
C重油	95	176	▼ -81	(-46%)
合計	2,385	2,450	▼ -65	(-3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月6日時点の在庫は、ジェット、軽油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては軽油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは157.0万kl、前週差4.9万kl減。前年に対しては13.0万kl少ない。

灯油は118.2万kl、前週差14.9万kl減。前年に対しては33.6万kl少ない。

軽油は139.8万kl、前週差6.4万kl増。前年に対しては7.4万kl多い。

A重油は74.3万kl、前週差1.3万kl減。前年に対しては0.3万kl少ない。

C重油は194.7万kl、前週差4.3万kl増。前年に対しては1.2万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (4/6)	前週 (3/30)	前週比	
ガソリン	1,570	1,619	▼ -49	(-3%)
ジェット燃料	876	808	▲ 68	(8%)
灯油	1,182	1,331	▼ -149	(-11%)
軽油	1,398	1,334	▲ 64	(5%)
A重油	743	756	▼ -13	(-2%)
C重油	1,947	1,904	▲ 43	(2%)
合計	7,716	7,752	▼ -36	(-0.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月2日から8日の原油価格は前週比で値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、3月26日～4月1日の間、ガソリン116円台で値上がり、軽油64～65円台でわずかに値下がり、灯油64円台でほぼ横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン116～117円台で値上がり、軽油66～67円台でほぼ横ばい、灯油63～65円台で値下がり後大きく値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン113～114円台で値上がり、軽油65～66円台で値上がり後横ばい、灯油63～64円台大きく値上がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社2.0円の引き上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

今週の製品スポット市況は、全油種・全取引で、前週平均と比べ値上がりした。

4月第3週(4/11～4/17)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(4/2～4/8千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは1.4円の値上がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油は0.2円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは1.4円の値上がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は1.3円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが2.3円の値上がり、灯油は1.6円の値上がり、軽油は1.2円の値上がりだった。

4月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社2.0円の引き上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (4/2～4/8)	前週 (3/26～4/1)	前週比
レギュラー	62.7	61.3	▲ 1.4
灯油	64.6	64.2	▲ 0.4
軽油	65.1	64.9	▲ 0.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

先物価格 [期近物/終値] [平均]	今週 (4/2～4/8)	前週 (3/26～4/1)	前週比
レギュラー	60.1	57.8	▲ 2.3
灯油	64.0	62.4	▲ 1.6
軽油	66.1	64.9	▲ 1.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/2～4/8実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.4	▲ 2.3	▲ 1.8
灯油	▲ 0.4	▲ 1.6	▲ 1.0
軽油	▲ 0.2	▲ 1.2	▲ 0.7
A重油	▲ 0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月8日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の146.2円、軽油も同0.1円高の127.0円、灯油は18%ベースで同2円高の1,622円(1%ベースでは同0.1円高の90.1円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに8週連続の値上がりだった。都道府県別には、値上がり率が29都府県、横ばいが6県、値下がり率が12道府県だった。全国最安値は徳島県の138.3円(前週比0.5円高)、次が埼玉県の141.8円(同0.2円高)、最高値は長崎県の157.7円(同0.4円高)であった。最も値上がりしたのは1.0円高の宮城県(145.2円)、横ばいは高知県など6県、最も値下がりしたのは0.6円安の北海道(146.6円)・静岡県(147.2円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の引き下げとなった。

今週は、原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社2.0円の引き下げとなった。次週(4月15日)のガソリン・灯油の小売価格は値上がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/8)	前週 (4/1)	前週比	直近高値
レギュラー	146.2	146.1	▲ 0.1	08/8/4 185.1
灯油	90.1	90.0	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	127.0	126.9	▲ 0.1	08/8/4 167.4

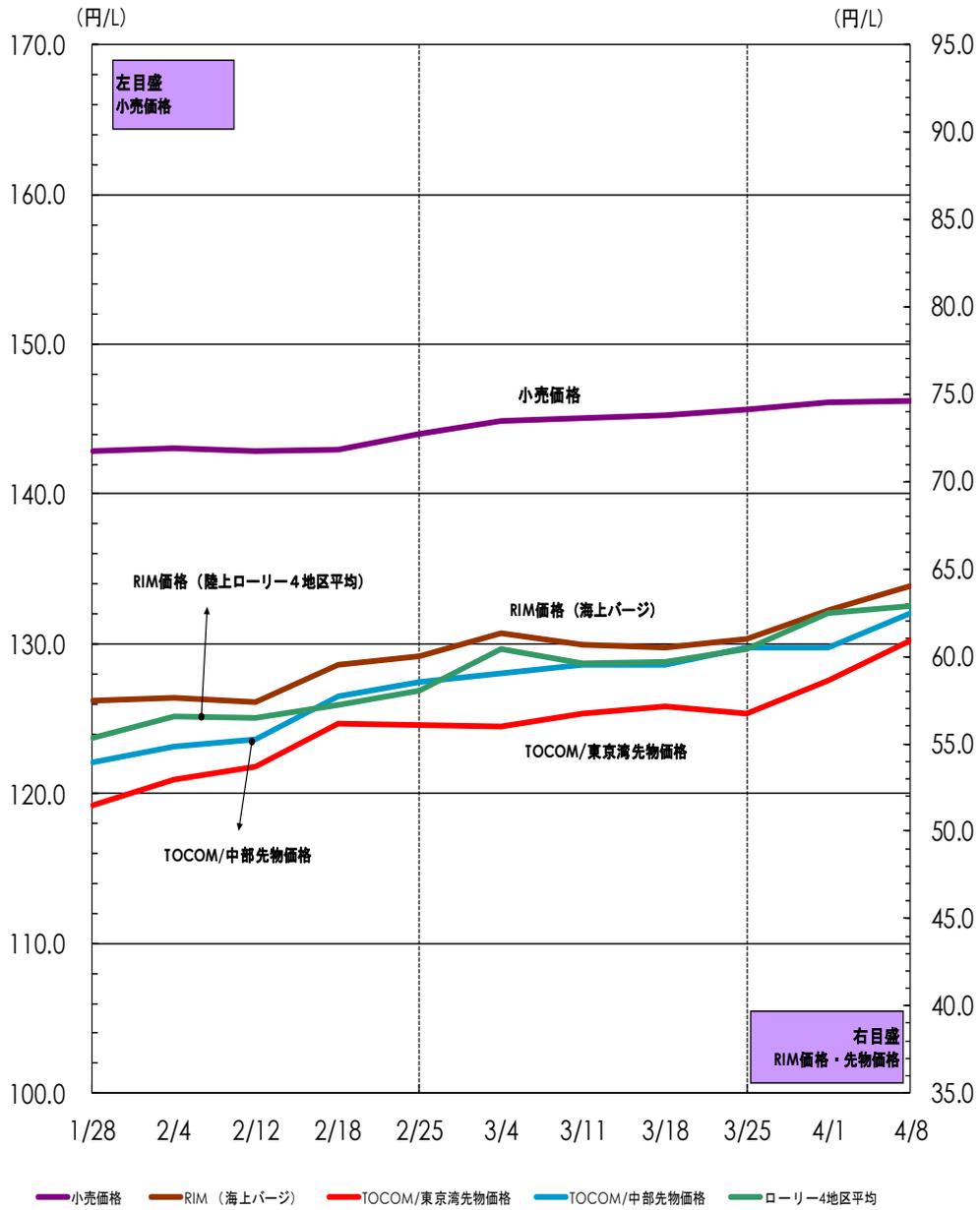
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/1/28 ~ 2019/4/8)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第3号)の公表は、4/19(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPIに掲載)。